

【防犯まちづくりの基本的な手法】

人の目の確保（監視性の確保）

多くの「人の目」（視線）を自然な形で確保し、犯罪企図者に「犯罪行為を行えば、第三者に目撃されるかもしれない」と感じさせることにより犯罪抑止を図る。

犯罪企図者の接近の防止（接近の制御）

犯罪企図者の侵入経路をなくし、被害対象者（物）に接近することを妨げることにより、犯罪の機会を減少させる。

地域の共同意識の向上（領域性の強化）

防犯まちづくりを行う地区に対し、その住民等が「我がまち意識」を持ち、コミュニティの形成、環境の維持管理、防犯活動の活性化等を通じて犯罪抑止を図る。
〔2003年（平成15年）7月、防犯まちづくり関係省庁会議が取りまとめた「防犯まちづくりの推進」から抜粋〕

Q2. 活動を長続きさせる方法がありますか？

A2. 活動が長続きし、活発な活動を行っている団体の例をみると、

◎無理のない手段・方法で実施する

- ◎活動の目的、内容等については住民相互で意思統一を行う
 - ◎活動重点、活動計画等を定めている
 - ◎多くの住民が参加できる活動内容を設定する
 - ◎リーダーの自主防犯活動の知識が豊富で、積極的である
 - ◎拠点を設けて活動しやすい環境づくりを行う
 - ◎関係機関・団体と緊密な連携を図る
- といったことが考えられます。

Q3. 防犯パトロールには危険がありませんか？

A3. 防犯パトロール中には、犯罪者や不審者（車）に遭遇することが予想されます。遭遇した場合は、特徴点、進行方向などを、速

やかに警察に通報することとし、無理な追跡行為は行わず、危険を感じたときは、防犯ブザーやホイッスルを吹鳴らすなどして、周囲へ危険を知らせ、避難するなど自分の安全を確保してください。また、歩道の通行のほか蛍光色の服装や夜光チョッキ、懐中電灯の携行など交通事故防止にも十分配慮してください。



Q4. 犯罪が起きにくい町だとPRするよい方法がありますか？

A4. 隣近所に働きかけを

自分の家の戸締りなど気をつけるとしても、町全体で統一的に進められることは何かをピックアップしてみましょう。PRには、当然地域の方の協力が必要になります。まずは隣近所などで協力してもらえそうな人を集め、町内会代表の方や学校のPTA、地域の警察などに働きかけていくことになるでしょう。

できるだけ多く目に見える形で

PRのためには、目に見えて、ある程度統一感のある形で行うことが大切です。できるだけ多くの方の協力で得られるように、さまざまなアピール方法を考えていきましょう。

もちろん警察にも協力を依頼します。警察官立ち寄り所のステッカーを商店や金融機関などに貼ってもらう、町内会の掲示板や商店の入り口などに防犯のポスターを貼ったり、のほりを立てたりしてもらう、腕章など同じ目印をつけて地域をパトロールする、などの方法もあります。子どもたちに防犯ポスターを描いてもらうなど、一人でも多くの方が防犯活動に関っていけるようなアイデアが生まれるといいですね。



また、子ども110番の家や防犯連絡所のステッカーが古くなって色あせていると、もう機能していないと思われるかもしれません。新しい物に取り替えてもらいましょう。

お店の人を味方にする

町中のお店は、いざという時に助けを求められることができる場所です。地域の小中学校や町内会、警察を通して協力をお願いできるように働きかけるとよいでしょう。

個人的にも子連れで近所の商店街で買い物をし、お店の方と顔見知りになっておくことは、防犯上有効なことです。その地域に住む人たちがお客さんなので、温かく見守ってもらえる可能性は高いでしょうね。お願いするだけでなく、こうした「持ちつ持たれつ」という気持ちが大切です。

防犯PRは目に見える形で。できるだけたくさんの方で行いましょう。

〔出典：「犯罪の危険から子どもを守る!子どもと親の不安を解消する77のヒント」〕